

2007年11月、大岡山駅に日本初の駅上病院が誕生します

東急病院が、鉄道利用者にも便利な駅上病院に生まれ変わり、地域社会へのさらなる貢献を図ります

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：越村敏昭）では2007年11月、東急目黒線・大井町線大岡山駅に近接する東急病院（所在地：大田区北千束、病院長：川村忠夫）を、同駅上部に新築する5階建ての施設に移転します。駅上部に病院を開設するのは日本で初めてとなります。

東急病院は当社の企業立病院として1953年に開院して以来、地域社会への貢献や東急グループ従業員の福利厚生を目的に医療サービスを提供してきました。しかし、開院から50年以上が経過し施設の老朽化が著しいことから、大岡山駅上部に施設を新築し移転するものです。

駅上部を病院として利用する際は、医療行為に支障を来さないよう、振動対策が重要になりますが、大岡山駅は、コイルばね防振装置を線路の下に設置しており、上部を病院として利用可能な構造としています。また、駅改札付近に病院入口を設けているため、雨天の日も濡れずに駅から病院に入ることができるなど、鉄道利用者にとっても使いやすい病院となっています。

施設面では、「大岡山にやすらぎの丘をつくる」を設計コンセプトに、プライバシーの確保を重視するなど受診される方がリラックスして治療を受けることができる施設としているほか、建物外観については、壁面や屋上を緑化することで周辺の街並みとの調和を図っています。また診察室や病室の扉を大きくし車椅子利用者も利用しやすい環境を整えています。

診療面では、診療科目は現行とほぼ同じ16科目としますが、生活習慣病にかかわる糖尿病、消化器科、腎臓内科（透析）、整形外科については、専門外来の拡充や検査機器の更新を図ることなどにより専門性をより高めるとともに、大学病院や地元クリニックとの連携を強めます。また、人間ドックメニューの拡充など病気の予防に注力するとともに、リハビリテーション機能の充実を図ります。このほか、鉄道を使って通勤・通学される方も利用しやすい診療時間の設定を検討するなど、地域の皆さまだけでなく、鉄道利用者の皆さまの健康も幅広くケアすることのできる医療サービスを提案していきます。

当社では、東急病院を地域に密着した医療施設として一層充実させることで、地域社会へのさらなる貢献を図るとともに、沿線価値を向上させていきたいと考えています。

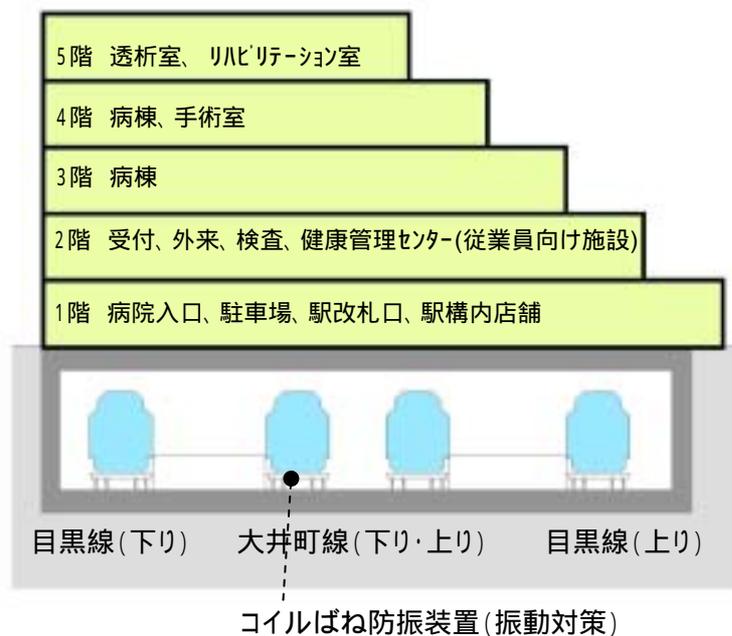
東急病院の新築移転の概要は別紙のとおりです。

以上

(別紙1)

新築移転後の東急病院の概要

所在地	大田区北千束3丁目635番地2(大岡山駅人工地盤上部)
敷地面積	6,127㎡
構造規模	鉄骨造地上5階建
延床面積	12,924㎡
着工予定	2006年10月
竣工予定	2007年8月末
移転予定日	2007年11月
設備投資額	50億円
診療科目	内科、消化器科、心療内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、肛門科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、婦人科(16科目)
病床数	135床
フロア	



(参考) 現東急病院の概要

所在地	大田区北千束1丁目45番6(大岡山駅東急病院口 徒歩1分)
敷地面積	8,102㎡
構造規模	鉄筋コンクリート造地上5階建(一部地下2階)
延床面積	9,832㎡
病床数	172床

以上

(別紙 2)

東急病院の完成イメージ



北西からのイメージ



南西からのイメージ